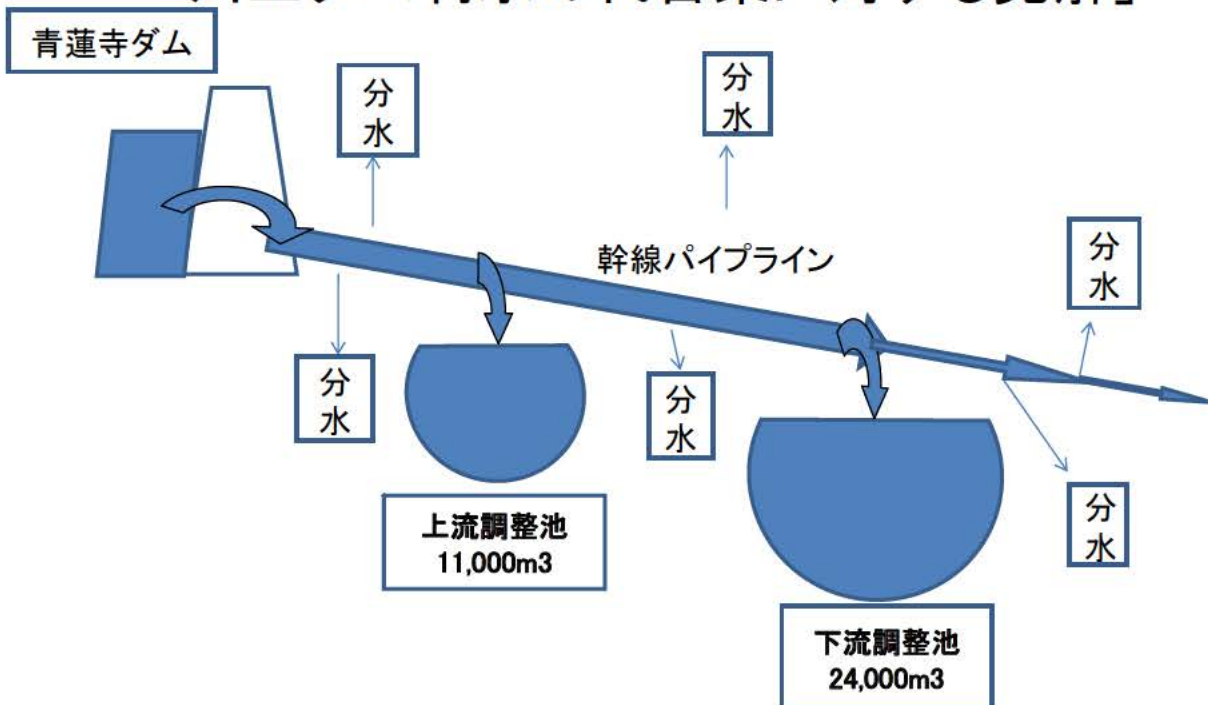


# 青蓮寺用水 幹線水路と調整池について

淀川水系流域委員会

1

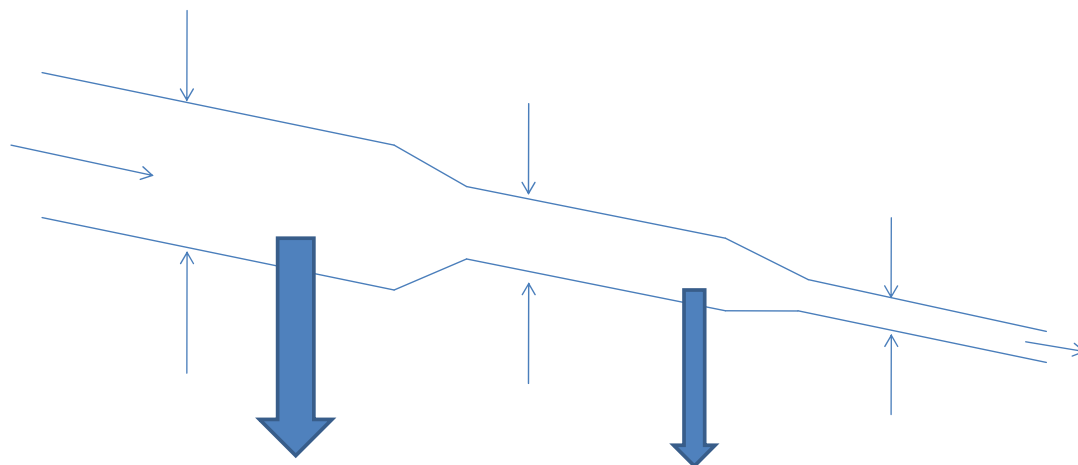
## 青蓮寺用水幹線パイプライン系統模式図 #70河川管理者提供審議資料 「川上ダム利水の代替案に対する見解」



2

# 通常の配管設計手法

分水して水量が減るので配管径は徐々に小さくする。



3

## #70河川管理者提供審議資料1-3 「川上ダム利水の代替案に対する見解」の記述

- 青蓮寺用水の最大取水量は、当初の $1.86 \text{ m}^3/\text{s}$ が、かんがい面積や作付け時期の変更により、平成15年に $1.72 \text{ m}^3/\text{s}$ に変更されていますが、これによる管路の余裕は $0.14 \text{ m}^3/\text{s}$  (幹線水路の送水能力は末端に行くほど小さくなっているため末端の余裕はさらに小さくなります)しかありません。また、構造から流下能力を評価しても余裕は $0.05 \text{ m}^3/\text{s}$  (矢田川に隣接する下流調整池の直上流地点)しかありません。したがって、伊賀水道用水必要水量 $0.358 \text{ m}^3/\text{s}$ の導水は行えません。

4

# 青蓮寺用水幹線水路の基本設計

幹線水路は、ダム取水点から最初は900mm、その後1,350mm、1,000mmになり、下流調整池まで口径1,000mmのパイプが敷設されている。

下流調整池以後は口径を徐々に小さくしている。

